



木もれびの森の野鳥たち

7月

<たくさんの虫を食べる野鳥たち>

6月。森の木々は柔らかな葉をたくさん繁らせ、下草や低灌木も勢いを増してきました。いよいよ虫たちの季節到来です。野鳥たちは、…。無事巣立ちをしたヒナたちは、飛ぶ力を身につけ、親から自立し、若い群れの中で生活を始めています。シジュウカラ・エナガ・メジロ・コゲラの若鳥たちは、親に比べて体の色が薄ぼやけて見えます。それでも高い木の枝の間を上手に飛び交い、葉の裏に隠れているイモムシを見つけ出しては食べています。少し大きな鳥、ムクドリの若鳥たちは地面に下り、腐葉土の中から大きなイモムシをくわえて、ウロウロしているのをよく見かけます。体の大きなカラスでは、巣立ちをして親と同じくらいの大きさになっても、秋近くまで親のそばで生活しているようです。幼鳥は、くちばしのつけ根と口の中が赤くみえるので判断できます。「ウン、アー」と甘え声で鳴いたときに、よく観察してみてください。

木もれびの森では、6月までにカッコウの仲間、カッコウ・ホトギス・ツツドリの3種が姿を見せました。ツツドリは2日間、「ポポ・ポポ・ポポ…」と鳴いていました。木もれびの森では珍しい立寄りかも知れません。

7・8月に入ると、野鳥たちの親は子育て一段落のときを迎え、さえずることもめったにありません。森はセミの大合唱につつまれ、しばし昆虫たちにコントタッチの時期となります(瀬尾)。



イモムシを見つけムクドリ

こもれびの森の樹木 (20)

5月下旬から6月にかけて長野県内の高速道を走行していると車窓から藤に似たような白い房状の花がたくさんつけた樹木の群落を遠くからでも見ることができます。



ハリエンジュの花

ハリエンジュ (別名をニセアカシア) です。マメ科ハリエンジュ属で落葉高木。明治初期に北アメリカからの渡来したもので、札幌のアカシア並木もその頃からのものだそうです。

樹皮は縦に裂け、裂け目は互いにクロスする感じです、花は長さ2cm程の白色の蝶形の花が枝先にまとまってつき、10~15cmの香りの良い花房を垂らします。葉は卵形の少葉をもつ奇数羽状複葉で互生します。実は5~10cmほどの長さやになっていて10月頃二つに裂け3~10個の種子を出します。こもれびの森では西大沼地区に群生しています、大きいのは幹周り90cmですが、昨年9月の台風により倒木し、また倒れかけられているものもあります。台風にも弱く倒れやすいので厄介です。この木の繁殖は種子によらず地中を走る根から萌芽して生えます、同地区の周辺には幼木が多数植生しています。



白い花は良質な蜂蜜資源です、数年前までは当地区にも蜜箱が置かれ養蜂が行われていました。用途は他に木質が硬く線路の枕木や薪炭に利用されていましたが最近では「嫌われ者」になっています。日本の在来種の生息域を奪い脅かす外来種は「侵略的外来樹種」と呼ばれますが、このニセ

アカシアはその代表的なもので、群落の管理には難しい研究課題があります。

最近、活動地で新しい木を発見しました。ウリノキです。1m20cmほどの幼木です。ウリノキ科ウリノキ属の落葉低木で木の高さは3~4mほどになりますが、白い花びらは外側にくると巻き上がり、黄色い雄しべが長く突き出した形です、葉は長さ10~20cm、3~5に裂けます。秋に藍色の実がなるのが楽しみです(林)。



ウリノキの花 5/27撮影

木もれびの森のつる植物

今月は、残暑の強烈な日差しの下での低木や草むらなどの上部に、白い花を密集させているのをよく見かけるセンニンソウとその仲間の紹介です。

日当たりのよい河原の土手や草はら等に多く、低木の枝先から地面に広がる満開の白い花は流れ落ちる滝のようにも見えます。あまり高い位置で見かけないのは葉柄を他の植物に巻きつけるようにして立ち上がるため、太い幹などには絡み付くのが難しいためでしょうか。挿し木で簡単に根付き、庭の花として利用している人も多いです。

仲間には、**センニンソウ**、**ハンショウヅル**、**ボタンヅル**、**カザグルマ**、**クサボタン**等があります。

木もれびの森ではセンニンソウとハンショウヅルそれにボタンヅルが生育していますが、センニンソウとボタンヅルの白い花をつけた姿を見ることはほとんどありません。やはり日当たりの関係でしょうか(岩田)。



半円状に巻きついた葉柄

キンポウゲ科センニンソウ属

この仲間は種子の先端に仙人の髭のような細い毛が付くのが特長です。また一部を除き蔓性で他の蔓性植物と異なり、他のものに葉柄を半円状に巻きつける珍しい方法で絡みつきます。



出来たての種子



センニンソウ:花期は8-9月でボタンヅルによく似ていますが、花はボタンヅルに比べ大きくまた白味がより強いです。葉は普通卵形の3~5枚の縁が滑らかな小葉からなる羽状複葉です。この点から鋸歯のあるボタンヅルと容易に見分けられます。



ハンショウヅル:花期は5-6月で林の中や林縁で、花は紅紫色の半鐘に似た形で下を向いて咲き長さ2-3cm。葉は3枚の卵形の小葉からなる複葉で、葉には鋸歯があります。木もれびの森にはハンショウヅルと、花色が白で形は釣鐘よりも傘に似たシロバナハンショウヅルが見られます



ボタンヅル:花期は8-9月で白色の花弁に見える十字形に平開した萼に雄しべ雌しべが多数立ち上がった美しい花を多数つけます。葉は小葉3枚(1回3出複葉)からなり小葉は卵形で大きな鋸歯があります。木もれびの森ではこれに似たコボタンヅルが多いです。小葉が9枚(2回3出複葉)であることからボタンヅルと見分けられます。

